

令和 7 年度
4 月確認問題
～結果報告資料～



令和 7 年 6 月

山口県教育庁義務教育課

目 次

□ 4 月確認問題

- (1) 結果概要…………… 1
- (2) 設問別正答率…………… 2
- (3) 出題の意図と分析…………… 9

結果概要

令和7年度「4月確認問題」結果概要

令和7年5月21日（水）現在の学力分析支援ツールへの入力を基に、4月確認問題の結果を、以下のとおり示します。

□実施人数

- ・各学年・教科ごとに、実際に問題を実施した児童生徒数(全県)を示しています。

□平均正答率

- ・各学年・教科ごとの平均正答率を、次の計算式で算出しています。

平均正答率＝(実施した児童生徒全員の正答数の合計)÷(設問数×実施人数)

□設問ごとの正答率

- ・学力分析支援ツール個人票と同様の様式で、設問ごとの正答率を示しています。

	国語		算数・数学		英語	
校種 ・ 学年	実施人数	平均正答率	実施人数	平均正答率	実施人数	平均正答率
小学校 第5 学年	9,105 人	56.7%	9,126 人	69.5%	—	—
中学校 第1 学年	9,219 人	66.4%	9,214 人	68.8%	—	—
中学校 第2 学年	9,098 人	66.7%	9,119 人	49.3%	9,102 人	60.5%

設問別正答率

小学校第5学年 国語

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	5	55.7%
	思考力、判断 力、表現力等	話すこと・聞くこと	63.1%
		書くこと	55.3%
		読むこと	49.3%
評価の観点	知識・技能	5	55.7%
	思考・判断・表現	11	57.2%
問題形式	選択式	15	58.0%
	短答式	0	-
	記述式	1	37.9%

設問別集計結果

設問番号			出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点		問題形式			学習 関連 する やまぐち 学習 支援 する プログラ ム問 題	県全 体正 答率 (%)
				知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	選 択 式	短 答 式	記 述 式		
				(1)	(2)	(3)	A	B	C							
				使 言 い 業 方 に 特 関 徹 す る 事 項	関 情 す 報 の 事 項 の 扱 い 方 に	関 我 が る 国 の 事 象 の 言 語 文 化 に	話 す こ と・ 聞 く こ と	書 く こ と	読 む こ と							
1	(1) ①	①	司会者が、話し合いが目的に応じて適切に進行するように、参加者に発言を促す役割を担っていることを理解することができるかどうかをみる				3・4 オ				○	○			小4「話す・聞く」 06「お楽しみ会1」 (話し合い) 07「お楽しみ会2」 (話し合い) 08「読書」(話し合 い)	57.0%
1	(1) ②B	②	司会者が、話し合いが目的に応じて適切に進行するように、議 題からそれた話になったときにはそれを戻す役割を担っている ことを理解することができるかどうかをみる				3・4 オ				○	○				70.9%
1	(1) ②C	③	司会者が、話し合いが目的に応じて適切に進行するように、参 加者の発言の共通点や相違点を確認する役割を担っていること を理解することができるかどうかをみる				3・4 オ				○	○				71.7%
1	(2) ①	④	相手に伝わるように、理由を挙げながら話すことができるかど うかをみる				3・4 イ				○	○				64.3%
1	(2) ②	⑤	自分の立場を伝えながら話すことのよさを理解することができ るかどうかをみる				3・4 オ				○	○				51.6%
1	(3)	⑥	考えをより具体的に説明するために、例を挙げるとよいことを 理解することができるかどうかをみる		3・4 ア						○	○				46.2%
2	(1)	⑦	情報の比較の仕方を理解して使うことができるかどうかをみる		3・4 イ						○	○			小4「書く」 09☆やまぐちっ子ブラ ス書くこと1	69.9%
2	(2)	⑧	内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意し たりして文章の構成を工夫することができるかどうかをみる				3・4 イ				○	○				60.4%
2	(3) ①	⑨	自分の考えとそれを支える理由の関係を明確にして、書き表し 方を工夫することができるかどうかをみる				3・4 ウ				○		○			37.9%
2	(3) ②C	⑩	書き手が書こうとしたことが明確に表現されているところを見 付け、伝え合うことができるかどうかをみる				3・4 オ				○	○				67.6%
2	(3) ②D	⑪	本等で調べたり、人から聞いたりして分かったことを伝える言 葉の使い方について理解し使うことができるかどうかをみる	3・4 オ							○	○			61.2%	
3	(1)	⑫	考えとその事例といった文章全体の段落相互の関係を把握して 読むことができるかどうかをみる						3・4 ア		○	○			小3「読む」 06☆やまぐちっ子ブラ ス読むこと2	68.9%
3	(2)	⑬	目的を意識して必要な情報は何かを念頭に置きながら、落とし てはいけない語句を適切に捉え、書き留めたり印をつけたりす ることができるかどうかをみる		3・4 イ						○	○				47.0%
3	(3)	⑭	書き手の考えが、どのような事例によって具体化されているの か叙述を基に正確に捉えることができるかどうかをみる						3・4 ア		○	○				23.0%
3	(4)	⑮	指示する語句が指していることを捉えて読むことができるかど うかをみる	3・4 カ							○	○				54.1%
3	(5)	⑯	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することが できるかどうかをみる						3・4 ウ		○	○				55.9%

令和7年度やまぐち学習支援プログラム 4月確認問題 設問別正答率一覧
 中学校第1学年 国語

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	3	73.1%
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	64.6%
		書くこと	62.8%
		読むこと	67.4%
評価の観点	知識・技能	3	73.1%
	思考・判断・表現	12	64.7%
問題形式	選択式	14	68.3%
	短答式	0	-
	記述式	1	40.2%

設問別集計結果

設問番号			出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点		問題形式			学習指導要領のプログラム問題	県全体正答率（％）	
				知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式			
				(1)	(2)	(3)	A	B	C								
				使言 業方 に特 関徴 する 事項	関情 す報 るの 事抜 項い 方に	関我 する 国の 事言 語文 化に	話 すこ と・ 聞く こと	書 くこ と	読む こと								
1	(1) ①	①	司会者が、話し合いが円滑に進むように、話し合いの意図を確認する役割を担っていることを理解することができるか をみる				3・4 オ				○	○			小6「話す・聞く」 09☆やまぐちっ子ブラス 話すこと・聞くこと1	70.4%	
1	(1) ②	②	司会者が、話し合った内容がまとまていくように、意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめる役割を担っていることを理解することができるか をみる				3・4 オ				○	○				65.9%	
1	(2) ①	③	相手に伝わるように、理由を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を工夫することができるか をみる				3・4 イ				○	○				73.0%	
1	(2) ②	④	考えを広げたりまとめたりするために、自分の知りたいことを尋ねることができるか をみる				5・6 オ				○	○				67.0%	
1	(2) ③	⑤	話し合いの中で、異なる意見を自分の考えに生かしながら、考えをまとめることができるか をみる				5・6 オ				○	○				46.5%	
2	(1) ①	⑥	引用の仕方を理解し使うことができるか をみる		3・4 イ						○		○			83.4%	
2	(1) ②	⑦	集めた材料を書く目的に応じて結び付け関係を明確にすることができるか をみる					5・6 ア				○			○	小6「書く」 05事実と意見1 06事実と意見2 07事実と意見3 08事実と意見4	40.2%
2	(2)	⑧	筋道の通った文章になるように、文章の構成や展開を考えることができるか をみる					5・6 イ				○	○				61.5%
2	(3)	⑨	事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか をみる					5・6 ウ				○	○				84.7%
2	(4)	⑩	目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかなどについて、具体的に感想や意見を述べる ことができるか をみる					5・6 カ				○	○				64.8%
3	(1)	⑪	図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるか をみる		5・6 イ							○		○		65.2%	
3	(2)	⑫	思考に関わる語句を話や文章の中で使うことができるか をみる	5・6 オ								○		○		70.8%	
3	(3) ①	⑬	書き手の論の進め方について理解することができるか をみる						5・6 ウ			○	○			小6「読む」 08☆やまぐちっ子ブラス 読むこと1 09☆やまぐちっ子ブラス 読むこと2	64.2%
3	(3) ②B	⑭	書き手が文章で取り上げている内容の中心を捉えることができるか をみる						5・6 ア			○	○				64.2%
3	(3) ②C	⑮	目的に応じて、必要な情報を見付けながら読むことができるか をみる						5・6 ウ			○	○				73.9%

中学校第2学年 国語

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	4	53.5%
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	83.6%
		書くこと	65.1%
		読むこと	64.0%
評価の観点	知識・技能	4	53.5%
	思考・判断・表現	11	71.6%
問題形式	選択式	14	69.5%
	短答式	0	-
	記述式	1	28.5%

設問別集計結果

設問番号			出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点		問題形式			学習 関連 支援 する やまぐち プログラム 問題	県 全体 正 答 率 （ ％ ）
				知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	選 択 式	短 答 式	記 述 式		
				(1)	(2)	(3)	A	B	C							
				使言 業方 に特 関 関する 事項	関情 する 事項 に 方	関我 する 国の 事項 語文 文化 に	話 す こ と・ 聞 く こ と	書 く こ と	読 む こ と							
1	(1)	①	話題や検討した内容が、目的や場面等に合っているかを判断することができるかどうかをみる				1 ア				○	○			中1「話す・聞く」 05☆やまぐちっ子プラス 話すこと・聞くこと2	74.7%
1	(2) ①	②	話の付加的な部分を分かりやすく伝えるために説明の仕方を工夫することができるかどうかをみる				1 イ				○	○				85.6%
1	(2) ②a	③	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				1 ウ				○	○				86.7%
1	(2) ②b	④	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				1 ウ				○	○				87.3%
1	(2) ③	⑤	表現の技法を理解し使うことができるかどうかをみる	1 オ						○		○				62.3%
2	(1)	⑥	集めた材料を関連付けて整理することができるかどうかをみる					1 ア			○	○			小6「書く」 05事実と意見1 06事実と意見2 07事実と意見3 08事実と意見4	79.9%
2	(2) ①	⑦	段落の役割を意識して書くことができるかどうかをみる					1 イ			○	○				57.2%
2	(2) ②	⑧	根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わるように工夫して書くことができるかどうかをみる					1 ウ			○	○				74.5%
2	(2) ③	⑨	事実や意見などが明確に区別して表記できているかを確かめ、推敲することができるかどうかをみる					1 エ			○	○				48.9%
2	(3)	⑩	季節を表す語句を適切に使うことができるかどうかをみる	1 ウ						○		○				60.1%
3	(1) ①	⑪	文脈に即して言葉の意味を理解することができるかどうかをみる	1 ウ						○		○			中1「読む」 02☆やまぐちっ子プラス 読むこと2	44.3%
3	(1) ②	⑫	文と文を関連付けながら、内容の大体を読むことができるかどうかをみる						1 イ		○	○				83.7%
3	(2) ①	⑬	場面と描写を結び付けて内容を解釈することができるかどうかをみる						1 ウ		○	○				79.8%
3	(2) ②	⑭	表現技法について、その名称や意味を理解することができるかどうかをみる	1 オ						○		○				47.1%
3	(2) ③	⑮	表現技法が、文章の内容を伝えるのにどのように働いているのかを捉えることができるかどうかをみる						1 エ		○			○		28.5%

小学校第5学年 算数

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	数と計算	7	76.8%
	図形	3	46.8%
	測定・変化と関係	2	61.5%
	データの活用	3	80.6%
評価の観点	知識・技能	11	75.9%
	思考・判断・表現	4	51.9%
問題形式	選択式	8	74.1%
	短答式	6	72.6%
	記述式	1	14.6%

設問別集計結果

設問番号			出題の趣旨	主に学習する学年	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式			学習関連する 支援する プログラム 問題	県全体 正答率（％）
					数と計算	図形	測定・変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式		
1	(1)	①	小数同士の減法の計算をすることができる	4	4(4) ア (ウ)				○			○		小4「小数」	72.6%
1	(2)	②	3位数÷2位数の除法の計算をすることができる	4	4(3) ア (ア)				○			○		小4「わり算」	78.1%
1	(3)	③	帯分数－分数の減法の計算をすることができる	4	4(5) ア (イ)				○			○		小4「分数」	81.5%
1	(4)	④	減法と乗法、除法と（ ）の混じった計算をすることができる	4	4(6) ア (ア)				○			○		小4「式と計算の順 じょ」	78.0%
2	(1)	⑤	数直線上に分数を表すことができる	3	3(6) ア (イ)				○		○			小3「分数」	79.3%
2	(2)	⑥	ある数を上から2けたまでの概数で表す際、どの位を四捨五入するのかを判断できる	4	4(2) ア (イ)				○		○			小4「およその数」	81.1%
2	(3)	⑦	情報を基に、出発時刻を求めることができる	3			3(2) ア (イ)		○		○			小3「時こくと時間」	83.3%
3		⑧	乗法の場面を、□を使った式に表すことができる	3	3(7) イ (ア)					○	○			小3「□を使った式」	67.2%
4		⑨	比較量が基準量の何倍かを求めることができる	4			4(2) ア (ア)		○			○		小4「割合」	39.6%
5		⑩	図形を構成する要素に着目して、切って開いた形を判断することができる	4		4(1) イ (ア)				○	○			小4「四角形」	48.7%
6		⑪	展開図をもとに、構成される立体の垂直な面について捉えることができる	4		4(2) イ (ア)				○	○			小4「直方体と立方体」	77.0%
7		⑫	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方を説明することができる	4		4(4) イ (ア)				○			○	小4「面積」	14.6%
8	(1)	⑬	二次元の表の見方を理解している	4				4(1) ア (ア)	○		○			小4「調べ方と整理の仕方」	86.8%
8	(2)	⑭	二次元の表の欄に入る数を求めることができる	4				4(1) ア (ア)	○			○		小4「調べ方と整理の仕方」	85.9%
9		⑮	折れ線グラフから必要な情報を読み取ることができる	4				4(1) ア (イ)	○		○			小4「折れ線グラフ」	69.2%

中学校第1学年 数学

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	数と計算	5	73.1%
	図形	5	81.2%
	変化と関係	4	54.6%
	データの活用	3	59.8%
評価の観点	知識・技能	9	81.1%
	思考・判断・表現	8	54.9%
問題形式	選択式	5	77.0%
	短答式	10	69.8%
	記述式	2	43.2%

設問別集計結果

設問番号			出題の趣旨	主に 学習する 学年	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式			学習 指導要 領の 領域 と 評価 の 観点 の 関係 等	県 全体 正 答 率 (%)
					数と 計算	図 形	変 化 と 関 係	デ ー タ の 活 用	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	選 択 式	短 答 式	記 述 式		
1	(1)	①	小数の加法の計算をすることができる	小4	4(4) ア (ウ)				○			○		小4「小数」	76.0%
1	(2)	②	整数の乗法の計算をすることができる	小4	4(7) ア (ア)				○			○		小4「式と計算の順 じょ」	88.6%
1	(3)	③	分数の除法の計算をすることができる	小6	6(1) ア (イ)				○			○		小6「分数のわり 算」	87.4%
1	(4)	④	四則の混合した計算をすることができる	小4	4(7) ア (ア)				○			○		小4「式と計算の順 じょ」	66.9%
2	(1)	⑤	基準量をもとにして比較量を求めることができる	小5			5(2) ア (ア)		○			○		小5「割合」	73.1%
2	(2)	⑥	比較量をもとにして基準量を求める式を表す ことができる	小5			5(2) イ (ア)			○		○		小5「割合」	27.1%
3	(1)	⑦	縮図や拡大図について、対応する辺の長さの 比の性質を理解している	小6		6(1) ア (ア)			○			○		小6「図形の拡大と 縮小」	96.8%
3	(2)	⑧	縮図や拡大図について、対応する角の大きさ の性質を理解している	小6		6(1) ア (ア)			○		○			小6「図形の拡大と 縮小」	85.7%
4		⑨	点対称な図形をかくことができる	小6		6(1) イ (ア)				○		○		小6「対称な図形」	79.8%
5		⑩	立体と展開図を比べて、立体の面に対応する 展開図の面を捉えることができる	小4		4(2) イ (ア)				○	○			小4「直方体と立方 体」	77.1%
6		⑪	球の直径をもとに、立方体の体積を求めるこ とができる	小6	6(4) イ (ア)					○		○		小6「立体の体積」	46.7%
7		⑫	正三角形の作図の手順を適切に並べることが できる	小3		3(1) イ (ア)				○	○			小3「三角形と角」	66.4%
8	(1)	⑬	距離と時間の比例関係を利用して、かかる時 間を求めることができる	小5			5(2) イ (ア)			○		○		小5「速さ」	55.4%
8	(2)	⑭	距離と時間の関係をもとに速さを比較し、そ の求める方法を説明することができる	小5			5(2) イ (ア)			○			○	小5「速さ」	62.9%
9		⑮	全体の人数に対する切り傷の人数をもとにし て、割合の大小を判断し、説明することがで きる	小5				5(1) イ (ア)		○			○	小5「円グラフや帯グ ラフ」 ☆やまぐちっ子プラス 「データの活用」	23.5%
10	(1)	⑯	度数分布表から度数を読み取ることができる	小6				6(1) ア (イ)	○		○			小6「資料の調べ方」 ☆やまぐちっ子プラス 「データの活用」	81.8%
10	(2)	⑰	度数分布表から読み取った事柄を適切に評価 することができる	小6				6(1) ア (イ)	○		○			小6「資料の調べ方」 ☆やまぐちっ子プラス 「データの活用」	74.1%

中学校第2学年 数学

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	数と式	8	51.7%
	図形	3	48.2%
	関数	4	32.6%
	データの活用	3	66.6%
評価の観点	知識・技能	13	51.9%
	思考・判断・表現	5	42.6%
問題形式	選択式	8	58.6%
	短答式	8	45.7%
	記述式	2	26.8%

設問別集計結果

設問番号			出題の趣旨	主に 学習する 学年	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式			学習 支援する やまぐち プログラム 問題	県 全体 正 答 率 (%)
					数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式		
1	(1)	①	整式の計算ができる	1	1(1) ア (イ)				○		○			中1「正の数・負の数」	65.8%
1	(2)	②	文字を含んだ数式の加減の計算ができる	1	1(2) ア (ウ)				○		○			中1「正の数・負の数」	58.5%
1	(3)	③	文字式と分数の除法の計算ができる	1	1(2) ア (ウ)				○		○			中1「正の数・負の数」	55.4%
2	(1)	④	文字式の表し方について理解している	1	1(2) ア (イ)				○			○		中1「文字を用いた式」	30.9%
2	(2)	⑤	数量の関係を文字式を使って表すことができる	1	1(2) ア (エ)				○			○		中1「文字を用いた式」	21.9%
3	(1)	⑥	簡単な一元一次方程式を解くことができる	1	1(3) ア (イ)				○		○			中1「方程式」	68.3%
3	(2)	⑦	一元一次方程式を解き方の根拠を、等式の性質を基にして説明できる	1	1(3) イ (ア)					○		○		中1「方程式」	55.2%
3	(3)	⑧	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる	1	1(3) イ (イ)					○	○			中1「方程式」	57.3%
4	(1)	⑨	円柱の表面積を求めることができる	1		1(2) ア (イ)			○			○		中1「空間図形」	40.0%
4	(2)	⑩	回転移動における対称な点を見つけることができる	1		1(1) ア (イ)			○			○		中1「平面図形」	58.1%
4	(3)	⑪	与えられた条件にしたがって作図することができる	1		1(1) イ (ア)				○	○			中1「平面図形」	46.6%
5	(1)	⑫	関数の意味を理解している	1			1(1) ア (ア)		○			○		中1「比例・反比例」	16.7%
5	(2)	⑬	反比例において、yに対応するxの値を求めることができる	1			1(1) ア (エ)		○		○			中1「比例・反比例」	34.1%
5	(3)	⑭	比例定数と比例のグラフの関係を理解している	1			1(1) ア (エ)		○			○		中1「比例・反比例」	48.5%
6		⑮	比例のグラフをもとに、課題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することができる。	1			1(1) イ (イ)			○			○	中1「比例・反比例」	31.1%
7	(1)	⑯	与えられたヒストグラムから度数を読み取ることができる	小6				小6(1) ア (イ)	○		○			小6「資料の調べ方」	82.5%
7	(2)	⑰	与えられたヒストグラムについて、最も度数の大きい階級を読み取ることができる	小6				小6(1) ア (イ)	○			○		小6「資料の調べ方」	94.7%
7	(3)	⑱	判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	1				1(1) イ (ア)		○			○	中1「資料の散らばりと代表値」	22.6%

中学校第2学年 英語

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	聞くこと	8	66.4%
	読むこと	7	63.2%
	書くこと	3	38.5%
評価の観点	知識・技能	10	63.4%
	思考・判断・表現	8	56.9%
問題形式	選択式	12	68.7%
	短答式	2	31.8%
	記述式	4	50.5%

設問別集計結果

設問番号			出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点		問題形式			学習指導要領の 支援するやまぐち プログラム問題	県全体 正答率 (%)
				聞く こと	読む こと	書く こと	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	選択 式	短答 式	記述 式		
1	(1)	①	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	ア			○		○			中1「一般動詞2」	79.2%
1	(2)	②	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	ア			○		○			中1「現在進行形」	81.8%
1	(3)	③	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	ア			○		○			中1「一般動詞2」	63.4%
2	(1)	④	日常的な話題について、適切に応じることができる	ア			○		○			中1「疑問詞で始まる疑問文」	80.1%
2	(2)	⑤	日常的な話題について、適切に応じることができる	ア			○		○			中1「過去形」	71.6%
3	(1)	⑥	日常的な話題に関するまとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	イ				○	○			中1「be動詞」 中1「一般動詞」	60.8%
3	(2)	⑦	日常的な話題に関するまとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	イ				○	○			中1「一般動詞」 中1「canのある文」	59.7%
3		⑧	日常的な話題に関するまとまりのある英語を聞いて、把握した内容について、適切に応じることができる	イ				○			○	中1「canのある文」	34.6%
4	(1)	⑨	基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うことができる		イ		○		○			中1「一般動詞2」	49.2%
4	(2)	⑩	基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うことができる		イ		○		○			中1「現在進行形」	67.7%
4	(3)	⑪	基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うことができる		イ		○		○			中1「疑問詞で始まる疑問文」	77.2%
5		⑫	日常的な話題について、必要な情報を読みとることができる		ア			○	○			やまぐちっ子プラス読むこと（英語のチラシ）	75.7%
6		⑬	日常的な話題について、書き手の状況を理解することができる		ア			○			○	中1「canのある文」	53.8%
6		⑭	日常的な話題について、書き手が求めているものを理解することができる		ア			○			○	中1「canのある文」	61.5%
7		⑮	日常的な話題に関するまとまりのある英語を読んで、概要を理解することができる		ア			○	○			中1「過去形」	57.4%
8	(1)	⑯	文脈に合うように内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くことができる			ア	○			○		中1「過去形」	33.2%
8	(2)	⑰	文脈に合うように内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くことができる			ア	○			○		中1「疑問詞で始まる疑問文」	30.4%
9		⑱	日常的な話題に関するまとまりのある英文を読み、話の内容を踏まえて、英文を書くことができる			イ		○			○	やまぐちっ子プラス書くこと（自己紹介）	52.0%

出題の意図と分析

【4月確認問題 小学校第5学年国語】

相当数の児童ができている点

- 司会者が参加者の発言の共通点や相違点を確認する役割を担っていることを理解することについて、相当数の児童ができている。

1 (2) ②

- (1) 【話し合いの様子】を見た山口さんたちは、たくさんの人が参加する話し合いでは、司会者が話し合いを進める上で重要な役わりをしていることに気付きました。そこで、自分たちの話し合いのときに使うことができるように、下のように【司会の仕方】をまとめました。

【司会の仕方】

司会者の役わり	【話し合いの様子】における発言
話し合いの目的や議題をしめす。	「そこで、今日は、あまり本を読まない人も読書に親しめるようにするための取り組みについて話し合いたいと思います。」
議題から話がそれたときは元にもどす。	「 B 」
発言の同じ点やちがう点をかくにんする。	「 C 」

- ② 【司会の仕方】のBとCにあてはまる川口さんの発言として最もてき切なものを、【話し合いの様子】の _____ 部アから _____ 部オの中からそれぞれ選び、記号を書きましょう。

下の _____ 部アから _____ 部オは、【話し合いの様子】の中からぬき出したものです。

- ア 先週の読書アンケートの結果から、わたしたちの学級では、1か月に1さつも本を読まない人が多くいることが分かりました。
- イ 山本さんは、朝の会をする前の10分間をみんながいっしょに読書をする時間にするといい案をしてくれました。
- ウ 小松さんは、読書をする時間を決めることは山本さんと同じですが、その時間をいつにするかというのが、山本さんとはちがうということですね。
- エ すみませんが、ちょっと待ってください。今は、山本さんのてい案を受けて、みんながいっしょに読書をする時間を決めるかどうかについて話し合っています。
- オ みなさん、ありがとうございます。

【正答】 B : エ C : ウ

(B : 正答率 70.9% C : 正答率 71.7%)

出題の意図と分析

この問題は、話し合いが目的に応じて適切に進行するように、司会者が参加者の発言の共通点や相違点を確認する役割を担っていることを理解することができるかどうかをみる意図で出題した。昨年度の4月確認問題の「話すこと・聞くこと」の同様の問題の正答率は68.5%であり、引き続き、概ねできているといえる。

授業の中で司会の仕方などについて丁寧に扱っていることが考えられる。話し手の目的や意図に応じて内容を捉え、それが話し合いの中でどのような役割を担っているかということについて、引き続き丁寧に指導することが大切である。

【4月確認問題 小学校第5学年国語】

課題のみられる点

- 自分の考えとそれを支える理由の関係を明確にして書き表し方を工夫することについて、課題がみられる。

② (3) ①

(3) 【文章の組み立て】が分かった田中さんは、次のような【作文】を書きました。これを読み、あとの問い①と②に答えましょう。

【作文】

わたしは、インターネットで調べたり、^{えいようし}栄養士の先生に聞いたりして、5年生の1年間を元気に過ごすためには、毎日朝ごはんを食べることが大切だと考えました。

A朝ごはんを食べると、集中力が高まります。インターネットで調べてみると、朝ごはんを食べると脳の動きが活発になり、頭や体のスイッチが入り、勉強や仕事に集中できると書かれていました。栄養士の先生からは、もし、朝ごはんを食べなかったら、じゅ業中にやる気が起きなかったりイライラしたりすることがあるという話を聞きました。

もう一つ、理由があります。それは、午前中に活動するために必要なエネルギーをおぎなうことができるということです。栄養士の先生は、「体はねている間にもエネルギーを使っているため、朝はエネルギー不足のじょうたいです。」とおっしゃっていました。また、栄養士の先生によると、エネルギーが不足すると、一生けんめいに考えたり、運動をしたりすることがBできません。

これらの理由から、朝ごはんを食べることが、1年間を元気に過ごすために大切だと考えます。

- ① 田中さんは、書いた【作文】が自分の考えとその理由を分かりやすく伝わるものになっているか読み返してたしかめました。そして、【作文】の_____部Aを、朝ごはんを食べることが大切だという理由になる文に書き直すことにしました。その際、^{さい}先生から、【理由をあげるときの言葉】として、次の三つを教えてもらいました。三つの言葉のいずれかを使って、_____部Aを理由を伝える文に書き直しましょう。

【理由をあげるときの言葉】

- ・ なぜなら、_____からです。
- ・ その理由の一つは、_____です。
- ・ _____ためです。

【正答例】

なぜなら、朝ごはんを食べると、集中力が高まるからです。

(正答率：38.0%)

出題の意図と分析

この問題は、自分の考えとその理由の関係を明確にして、書き表し方を工夫することができるかどうかをみる意図で出題した。

問題文に、【理由をあげるときの言葉】を提示していたが、元の文の意味を損なわないようにしながら、理由を示す表現を用いて書くことに課題がみられた。語と語や文と文のつながりを意識したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりしながら、文や文章を書く機会を確保し、書くことに関する資質・能力を系統的に育成することが大切である。

【4月確認問題 中学校第1学年国語】

相当数の生徒ができている点

- 文章の中に含まれている情報の引用の仕方を理解することについて、相当数の生徒ができている。

2 (1) ①

【意見文】

わたしは、体力を向上させるためには、朝食を毎日食べることが大切だと考える。

実際に、わたしは、学校に遅れ^{おく}そうになって朝食を食べなかったとき、体育の授業で思うように体が動かなかったり、体力が続かなかったりしたことがある。

 A 、中学校2年生の男子で、「朝食を毎日食べる」と回答した人の体力合計点は41.7点、「朝食を食べない」と回答した人の体力合計点は38.4点だった。また、中学校2年生の女子で、「朝食を毎日食べる」と回答した人の体力合計点は47.8点、「朝食を食べない」と回答した人の体力合計点は43.6点だった。このことから、 B ことが分かる。

朝は食欲がないため、朝食を食べずに昼食を食べればよいのではないかと考える人もいるだろう。

しかし、昼食だと、午前中からしっかり活動するための状態をつくることができない。朝食を食べることで、午前中から脳や体が活発に動くようになり、体力を向上させることにもつながるだろう。

このように、体力を向上させるためには、朝食を毎日食べることが大切だと考える。

- ① 田中さんは、【意見文】の3段落に、【令和5年度みんなの食育白書】を根拠^{こんきよ}として引用しました。【意見文】の A に入る引用していることを示す言葉として最も適切なものを、次のアからエの中から選び、記号を書きなさい。

- ア 「令和5年度みんなの食育白書」とは反対に
イ 「令和5年度みんなの食育白書」と比べると
ウ 「令和5年度みんなの食育白書」の他に
エ 「令和5年度みんなの食育白書」によると

【正答】 エ

(正答率：83.4%)

出題の意図と分析

文章に含まれている情報の引用の仕方を理解しているか確認する意図で出題した。【意見文】の中に示された資料を根拠として引用する場合に、文脈の中でどのように使えばよいかということについて、相当数の生徒ができている。

「情報の扱い方に関する事項」は、現行の学習指導要領で新設された事項である。話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながる。

【4月確認問題 中学校第1学年国語】

課題のみられる点

- 話し合いの中で異なる意見を自分の考えに生かしながら考えをまとめることについて、課題がみられる。

① (2) ③

【会話】

岡本 川口さんたちのグループでは、司会者だけでなく、参加者も工夫して発言していることが分かりました。原田さんはどうですか。

原田 わたしもそう思いました。例えば、山本さんの_____線部の発言は、(A)。

岡本 その山本さんの取り組みのアイデアをもっとくわしく知るために、久保さんは、「 B 」と質問していましたね。久保さんの質問によって、山本さんの取り組みのアイデアがくわしく分かり、話し合いを深めていくことにつながっていました。

原田 それから、西川さんや吉田さんの_____線部の発言は、(C)と思います。参加者が思い思いに発言するのではなく、他の人の意見とつなげながら発言することで、意見がまとまっていくのだと思いました。次の話し合いでやってみたいです。

- ③ 原田さんは、【会話】の(C)で、【話し合いの様子】の_____線部の発言の特徴とよさについて話しました。(C)に入る言葉として最も適切なものを、次のアからエの中から選び、記号を書きなさい。

- ア それまでに出了意見に対する質問を投げかけ、自分の考えを広げようとしている
- イ それまでに出了意見に対する自分の立場を言いながら、自分の考えを話している
- ウ それまでに出了意見のよいところを見付け、それらを組み合わせて自分の考えを話している
- エ それまでに出了意見を繰り返し確認し、それに賛成しながら自分の考えを話している

次は、【話し合いの様子】から、_____線部をぬき出したものです。

西川 読書の時間を決めて、読書を習慣にするというのはよい考えだと思うので賛成です。しかし、朝の会の前は、登校時刻が違(ちが)ったり、委員会活動があったりして学級の全員がそろわないことがあります。

吉田 朝の会の前の時間がよいという意見がありましたが、委員会活動などで読めない日もあり、読書をするのが習慣になりづらいと思うので、わたしは反対です。

【正答】 イ

(正答率 : 46.5%)

出題の意図と分析

この問題は、話し合いの中で、異なる意見を自分の考えに生かしながら、考えをまとめることができるか確認する意図で出題した。令和6年度山口県学力定着状況確認問題での同様の趣旨の問題（発言の特徴を捉える）の正答率 64.2%からさらに低下しており、継続した課題であるといえる。

授業においては、話し合い自体を目的とするのではなく、話し合いの仕方・方法を学ぶ必要がある。話し合いの流れの中で、発言の役割や効果について考えながら話したり、論理の展開に注意して聞いたりする姿を引き出し、価値付けていくことが大切である。

【参考】

令和6年度 山口県学力定着状況確認問題（中1）

□ 5



大谷さん

⑨

そのとおりです。すでにできあがっているキャラクターはどの動物にも似ていないから、見ためと名前が違和感を与えてしまうかもしれません。



田中さん

⑩

確かにそうですね。C そういえば、この学校代表キャラクターがほうきを持っているのはなぜですか。



上山さん

⑪

D それは、この滝町中学校が清掃活動に力を入れて取り組んでいるからです。

5 動画での大谷さんの発言の^{とくちょう}特徴について説明したものとして最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- ・ 直前の発言を共感的に受け止めたうえで、改善した代案について述べている。
- ・ 直前の発言を共感的に受け止めたうえで、課題となる点について述べている。
- ・ 直前の発言を否定的に受け止めたあとで、課題となる点について述べている。
- ・ 直前の発言を否定的に受け止めたあとで、改善した代案について述べている。

大問1 動画 R6.10月確認問題 中1 国語



大問1 動画 R6.10月確認問題 中1 国語

【動画問題データ】
<https://drive.google.com/file/d/1fvz4SCFjWh55IOLEt4cyGLgoeggQ0acR/view?usp=sharing>

【正答】 直前の発言を共感的に受け止めたうえで、課題となる点について述べている。

（正答率：64.2%）

【4月確認問題 中学校第2学年国語】

相当数の生徒ができている点

- 話の付加的な部分を分かりやすく伝えるために説明の仕方を工夫することについて、相当数の生徒ができている。

1 (2) ①

【スピーチ】

初め { みなさんは登山をしたことがありますか。私は、いろいろな山に登ることが好きです。

中 { 登山をするようになったきっかけは、地域の催し^{もよお}で近所の山に登ったことです。誘^{さそ}ってくださったのは、近所の登山好きな南さんという方でした。

私は運動することが苦手だったので、初めての登山はあまり気乗りがしませんでした。実際に登ると急な上り坂や足場の悪いところがあり、半分を登ったくらいでつらくなりました。「もう帰りたい」と何度も思ってしまいました。Aしかし、南さんがとても心に残る言葉をかけてくださいました。その言葉のおかげで最後まで登り切ることができました。

そして、頂上に登って周りの景色を見た私は感動しました。「すごい……」。Bなんと、私たちが住んでいる町を一望することができたのです。C頂上まで登った達成感とすばらしい景色。私は大興奮してしまいました。登山のあとに南さんが、「また、一緒に山に登らないか」と言ってくださったときに、私はすぐに「よろしくお願いします」と返事をしました。

終わり { それ以来、多くの山にチャレンジしていき、今年だけで10以上の山に登っています。みなさんの中に登山に興味がある人はいませんか。ぜひ一度体験してみてください。世界が変わりますよ。これで私の発表を終わります。

- ① 田中さんは、【スピーチ】の「中」の部分で登山をするきっかけとなった出来事を話しました。田中さんは、登山をするきっかけとなった出来事をどのように話していますか。また、その意図は何ですか。それらの説明として最も適切なものを、次のアからエの中から選び、記号を書きなさい。

- ア 気持ちを入れずに事実を淡々^{たんたん}と話し、出来事を正確に伝えようとしている。
- イ 人から聞いたことも紹介しながら話し、出来事を詳しく伝えようとしている。
- ウ いくつかの出来事を比較して話し、出来事の違^{ちが}いを伝えようとしている。
- エ 気持ちの変化が分かるように話し、出来事を印象的に伝えようとしている。

【正答】 エ

(正答率：85.6%)

出題の意図と分析

この問題は、話の付加的な部分を分かりやすく伝えるために、説明の仕方を工夫することができるか確認する意図で出題した。【スピーチ】の内容が、どのように説明されているかを問う、言語形式に着目した問題である。昨年度の4月確認問題(中2)の「話すこと・聞くこと」の平均正答率71.9%に対し、今回は83.6%と相当数の生徒ができおり、改善がみられる。

授業においては、何が書かれ(話され)ているかだけでなく、どのように書かれ(話され)ているか、どのような意図があるかについて考えることを促す発問を行うことが大切である。

【4月確認問題 中学校第2学年国語】

課題のみられる点

- 表現技法が文章の内容を伝える際にどのように働いているのかを捉えることについて、課題がみられる。

③ (2) ③

【物語】

【それまでのあらすじ】
 鮎屋の客の子供ころの話である。その子供は、魚、野菜、肉が食べられないひどい偏食で、食事は苦痛なものであった。母親は、やせて病弱な息子に偏食をなおして健康に育ってほしいと願っていた。

その翌日であった。母親は青葉の映りの濃く射す縁側へ新しいごさを敷き、まな板だの包丁だの水おけだの蠅帳だの持ち出した。それもみな買いたての真新しいものだった。

かくて、子供は、鳥賊というものを生まれてはじめて食べた。象牙のようななめらかさがあって、生もちより、よっぽど歯切れがよかった。子供は鳥賊鮎を食べていたその冒険のさなか、つめていた息のようなものを、はっ、として顔の力みをといた。うまかったことは、笑い顔でしか表さなかった。(岡本かの子「鮎」)

③ 川口さんは、【物語】の _____ 線部の比喩表現が表していることについて考えました。鳥賊鮎を食べることを冒険と表すことで、子供のどのような心情を表現していますか。20字以内で答えなさい。

【正答例】 経験したことのないことに挑戦する気持ち (正答率：28.5%)

出題の意図と分析

表現技法が、文章の内容を伝える際にどのように働いているか捉えることができているか確認する意図で出題した。ここでは、「ひどい偏食だった子供」の「初めて鳥賊鮎を食べた」という行動と「冒険」という比喩表現の共通項を見付けて記述する力が求められる。令和5年度4月確認問題(中2)における同様の趣旨の問題(表現技法の効果)では、正答率は31.1%であり、依然として低い状態が続いており課題といえる。

言語内容だけでなく言語形式に着目した問題で、「どう書かれているか」について問い、そのことによる効果や書き手の意図に言及する授業を展開していくことが大切である。

【参考】

令和5年度 4月確認問題(中2) 四4

②			
効果			表現技法

問4 【物語の一部】の「まるで天じくから来た麝香獣でも見る時のように」、「まるであやつり人形のように」は、同じ表現技法が使われています。表現技法の名前とその効果を書きなさい。

【正答】

(表現技法) 比喩

(効果) (例) 様子をくわしくわかりやすく表す。

(正答率：31.1%)

【4月確認問題 小学校第5学年算数】

改善のみられる点

○乗法の場面を正しく捉え□を使った式に表すことについて、改善がみられる。

3

3 ゆうたさんはクッキーを、同じ数ずつ8人に配ります。そうすると、クッキーが全部で48まい必要でした。1人分のクッキーの数を□まいとして、正しく式に表したものを、次のアからエの中から1つ選び、記号で答えましょう。

ア $8 \times 48 = \square$

イ $\square \times 8 = 48$

ウ $\square \div 8 = 48$

エ $\square + 8 = 48$

【正答】 イ

(正答率：67.2%)

出題の意図と分析

この問題は、乗法の場面を正しく捉え、□を使った式に表すことができるか確認する意図で出題した。

これは、数量やその関係に着目する学習場面において、図に表された数量の関係を読み取って式に表したり、式に表された数量の関係を図に表したりする指導を丁寧に行っている成果だといえる。今後、この成果をさらに伸ばすために、□の中に1、2、3と順に当てはめるなどすることで、式を簡潔に表すことのよさを実感させられるようにしたい。

【参考】

令和4年度4月確認問題（小5）3

3 地いきの「花いっぱい運動」に参加した子どもに、チューリップの球根を4こずつ配ると、配った球根のこ数は全部で108こになりました。
参加した子どもの人数を□人として、かけ算の式に表しましょう。

【正答例】 $4 \times \square = 108$

(正答率：32.8%)

令和5年度4月確認問題（小5）3

3 子どもにおり紙を8まいずつ配ると、配ったおり紙のまい数は、全部で40まいになりました。子どもの人数を□人として、かけ算の式に表しましょう。

【正答例】 $8 \times \square = 40$

(正答率：44.9%)

【4月確認問題 小学校第5学年算数】

課題のみられる点

- 図形の面積の求め方を解釈し説明することについて、課題がみられる。

7

7 まさきさんたちは、右の図1の形の面積を求めようとしています。

図1

わたしは、ほかの求め方を考えました。

【めいさんの求め方】

$$(4+5) \times 12 = 108$$

$$5 \times 3 \times 2 = 30$$

$$108 - 30 = 78$$

答え 78 cm^2

めいさん

まさきさんたちは、この形の面積を次のように求めました。

【まさきさんの求め方】

$$4 \times 12 = 48$$

$$5 \times 6 = 30$$

$$48 + 30 = 78$$

答え 78 cm^2

まさきさん

2つの長方形に分けて考えました。

48, 30はそれぞれの長方形の面積を表しています。48+30は、2つの長方形の面積の合計を表しています。

【めいさんの求め方】の「 $108-30$ 」は、何を表していますか。「108」と「30」がどんな図形の面積を表しているかが分かるようにして、言葉や数を使って説明しましょう。

【正答例】

108は、図形のかけた部分があると見立てた、たて9cm、横12cmの大きな長方形の面積を表しています。
30は、かけた部分の5x3の長方形2つ分を表しています。
108-30は、大きな長方形からかけた部分の長方形2つ分の面積を引いていることを表しています。

(正答率 14.6%)

出題の意図と分析

この問題は、示された図形の面積の求め方を解釈し、説明することができるか確認する意図で出題している。

本設問は、凸型の図形の面積を求める方法を式から読み取る問題である。指導に当たっては、図形と式を関連付けて、式の意味を説明できるようにすることが大切である。例えば、本設問の場面を基に、「 $(4+5) \times 12$ 」「 $5 \times 3 \times 2$ 」の式と図のみを提示して「図の中のどの部分の面積か」などと問い、欠けている部分を補充して長方形に見立てて考えることや、欠けた部分の長方形2つ分の面積を表していることを解釈し、説明し合う場を設けることが考えられる。

【参考】

令和4年度4月確認問題(小5) 7

7 そうたさんたちは、図1の形の面積を求めようとしています。

図1

わたしは、ほかの求め方を考えました。

【めいさんの求め方】

$$8 \times 9 = 72$$

$$3 \times (8-5) = 9$$

$$72 - 9 = 63$$

答え 63 cm^2

めいさん

そうたさんは、図1の形の面積を次のように求めました。

【そうたさんの求め方】

$$5 \times 3 = 15$$

$$8 \times (9-3) = 48$$

$$15 + 48 = 63$$

答え 63 cm^2

そうたさん

2つの長方形に分けて考えました。

15, 48はそれぞれの長方形の面積を表しています。15+48は、2つの長方形の面積の合計を表しています。

【めいさんの求め方】の中の「 $72-9$ 」は、どのようなことを表していますか。「72」と「9」がどのような図形の面積を表しているのかがわかるようにして、言葉や数を使って説明しましょう。

【正答例】

72は、大きな長方形の面積を表しています。
9は、右下の正方形の面積を表しています。
72-9は、大きな長方形の面積から右下の正方形の面積を引いていることを表しています。

※必要であれば、下の図1を使って考えてもかまいません。

(正答率 28.9%)

【4月確認問題 中学校第1学年数学】

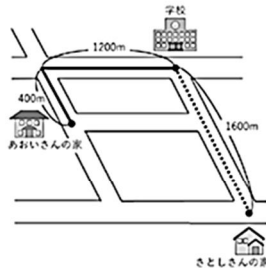
改善のみられる点

- 距離と時間の関係から速さを比較する方法を説明することについて、改善がみられる。

8 (2)

8 次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

- (2) さとしさんとあおいさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。家から学校までの道のりは、次の図のとおりです。



家から学校まで、さとしさんは24分間、あおいさんは20分間かかりました。それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、さとしさんとあおいさんのどちらが速いですか。下の1と2から選んで、解答用紙の番号を○で囲みなさい。

また、その番号を選んだ理由を、言葉や数を使って書きなさい。

- 1 さとしさん
2 あおいさん

【正答例】

(理由)
1 さとしさんとあおいさんの家から学校までは同じ1600mである。あおいさんの方がかかる時間が短いので、あおいさんの方が歩く速さが速い。

(正答率：62.9%)

出題の意図と分析

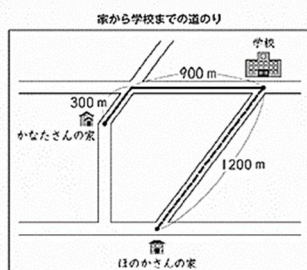
この問題は、距離と時間の関係を基に速さを比較し、求め方を説明することができるかどうか確認する意図で出題した。

これは、二つの数量の関係に着目し、場面に応じて速さの比べ方を考察する活動を通して、速さの意味を確認しながら指導をしている成果だといえる。今後、この成果を継続するために、単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間など、場面や目的に応じて速さを適切に捉えられるようにすることが大切である。

【参考】

令和6年度全国学力・学習状況調査(小6) 4 (3)

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。
家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。
それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。
下の1と2から選んで、その番号を書きなさい。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きなさい。

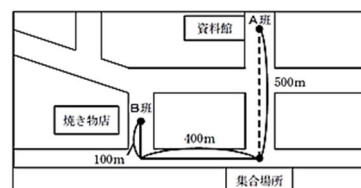
- 1 かなたさん
2 ほのかさん

【正答例】

1 かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900 + 300 = 1200$ で、1200mです。かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは、1200mで同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんのほうが速いです。

令和6年度山口県学力定着状況確認問題(小6) 5 (3)

(3) 二人は、個別学習で歩いた速さについて話をしています。



個別学習では、市街の文化や歴史について深く調べたね。ところで、最後に見学した場所から集合場所まで歩く速さは、A班とB班のどちらが速かったのかな。

A班は、資料館から集合場所まで10分だったよ。

B班は、焼き物店から集合場所まで8分だったよ。

つまり、それぞれの班が最後に見学した場所から集合場所までの歩く速さを比べると、B班の方が速いといえるね。

B班の方が速いといえる理由を、地図中の言葉や数を使って説明しよう。

【正答例】

A班が歩いた道のりは、資料館から集合場所までの300mです。一方、B班が歩いた道のりは、焼き物店から集合場所までの100m+400m=500mです。つまり、A班とB班が歩いた道のりは、500mで同じです。かかった時間には、A班が10分、B班が8分なので、B班の方が速いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、B班の方が速いといえます。

(正答率：41.8%)

(正答率：31.3%)

【4月確認問題 中学校第1学年数学】

課題のみられる点

- 比較量と割合から基準量を求めることについて、課題がみられる。

2 (2)

(2) 定価の3割引きで売られている弁当の値段が476円であるとき、この弁当の定価を求める式を書きなさい。

【正答例】 $476 \div (1 - 0.3)$

(正答率 27.1%)

出題の意図と分析

この問題は、示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができるか確認する意図で出題した。基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに依然として課題がみられる。

指導に当たっては、比較量を求める場面の考え方を基にして、数量の関係を把握できるようにすることが大切である。例えば、本設問を用いて、「定価の3割引きは476円である」→「定価の7割は476円である」→「定価 $\times 0.7 = 476$ 」と、同じ意味になるように整理しながら、数量の関係を乗法の式に表すことにつなげ、割合に対するハードルを低くすることが考えられる。

【参考】

令和6年度4月確認問題（中1） 2 (2)

(2) 定価の25%引きで売られているおにぎりの値段が120円であるとき、このおにぎりの定価を求める式を答えなさい。

【正答例】 $120 \div (1 - 0.25)$

(正答率 52.4%)

令和6年度山口県学力定着状況確認問題（小6） 5 (2)

(2) 二人は、おみやげを買ったときのことについて話しています。



夏みかんまんじゅう1箱
(8個入り)

¥1000

入館券を提示すると20%引き
(1箱のみ)



わたしは、夏みかんまんじゅうを2箱買ったよ。入館券を見せたら、1箱だけは20%引きで買うことができたよ。

みなみさんの支払った代金を求めましょう。

おみやげ屋さんは、多くの観光客でにぎわっていたよ。



【正答】 1800 円

(正答率 47.8%)

【4月確認問題 中学校第2学年数学】

相当数の生徒ができています

○ヒストグラムを正しく読み取ることについて、相当数の生徒ができています。

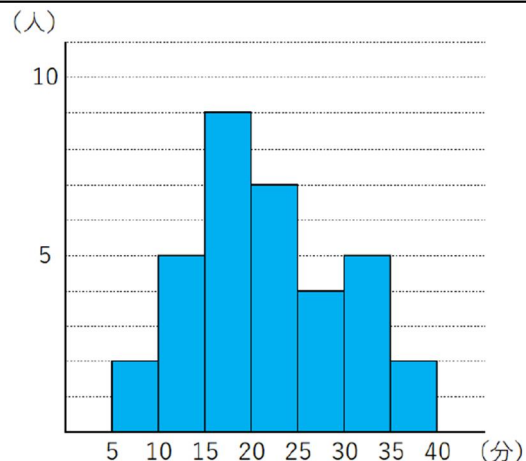
7 (1)

7 ゆうすけさんは、ゆうすけさんの学級 34 人

全員の通学時間を調べ、右のヒストグラムに
まとめました。

例えば、このヒストグラムからは、通学時間
が5分以上10分未満の生徒は二人いることが
分かります。

次の(1)から(3)の問いに答えなさい。



【正答】 11 人

(1) 通学時間が25分以上の人は何人が答えなさい。

(正答率 : 82.5%)

出題の意図と分析

この問題は、ヒストグラムから累積度数を読み取ることができるか確認する意図で出題した。本設問からは、統計的な判断の基になる知識・技能は身に付いていることがうかがえる。中1の確認問題でも、度数分布表を正確に読み取ることについては、正答率が78%であり、データの活用領域において、小・中学校を通じて、指導が適切に行われている成果だといえる。

今後、この成果を継続するために、データの分布の傾向を捉える活動を通し、累積度数の必要性や意味について理解を深めるよう指導することが大切である。

【参考】

令和4年度山口県学力定着状況確認問題 (中2) 6 (1)

6 滝町中学校の給食委員会では、毎日の給食の残食を減らしたいと考えています。インターネットで調べると、持続可能な開発目標(SDGs)として掲げられている17の目標の中に「12 つかう責任 つくる責任」という目標があることを知りました。この目標を調べるうちに、給食委員会では次のことが課題であると考えました。

・食べ残しなどの、まだ食べられる食料が捨てられていること

そのため、給食委員会では、6月の残食量をクラスごとに1ヶ月間計量し、データを分析してすることにしました。次の表1は2年1組、2組の調査結果を度数分布表で表したものです。

表1

給食の残食量 (kg)	1組 度数 (日)	2組 度数 (日)
0.0 ~ 0.2	2	0
0.2 ~ 0.4	0	0
0.4 ~ 0.6	1	1
0.6 ~ 0.8	4	2
0.8 ~ 1.0	3	4
1.0 ~ 1.2	3	7
1.2 ~ 1.4	3	3
1.4 ~ 1.6	1	3
1.6 ~ 1.8	1	2
1.8 ~ 2.0	0	0
2.0 ~ 2.2	1	0
2.2 ~ 2.4	0	0
2.4 ~ 2.6	1	0
2.6 ~ 2.8	1	0
2.8 ~ 3.0	1	0
計	22	22

(1) 表1から、1組の1.0kg未満の累積度数を求めなさい。

【正答】 10 (日)

(正答率 : 58.3%)

【4月確認問題 中学校第2学年数学】

課題のみられる点

●数量の関係を捉えその関係を文字式に表すことについて、課題がみられる。

2 (2)

(2) 「ある数 x を5で割ったら、商が y で余りが3になった」という数量の関係を、等式で表したものを、次のアからエの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア $\frac{x}{5}=y+3$ イ $\frac{x}{5}=y-3$ ウ $x=5y+3$ エ $x=5y-3$

【正答】 ウ

(正答率 21.9%)

出題の意図と分析

事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるか確認する意図で出題した。具体的な数や言葉を使った式を利用したり図に表したりして事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表すことに課題がみられる。

指導に当たっては、ある数を具体的な数に置き換え、小学校の学習を振り返ることで、その関係が(被除数) = (除数) × (商) + (余り) と表されることを確認する場面を設定することが考えられる。例えば、ある数を23としたとき、 $23 \div 5 = 4$ 余り3という数量の関係を $23 = 5 \times 4 + 3$ と表されることを確認し、 $x \div 5 = y$ 余り3という数量の関係は、 $x = 5y + 3$ と表されることを導く場面を取り上げる。その際、数量の関係を線分図などに表す活動を取り入れることも有効である。

【平成28年度全国学力・学習状況調査(中3) 数学A 2 (1)】

(1) ある数を3でわると、商が a で余りが2になります。ある数を、 a を用いた式で表しなさい。

【正答】 $3a+2$

(正答率 33.6%)

【4月確認問題 中学校第2学年英語】

改善のみられる点

- 日常的な話題から必要な情報を読み取るについて、改善がみられる。

5

5 あなたは、英語科の先生から夏休みの*イングリッシュキャンプのグループ分け希望調査票をもらいました。イングリッシュキャンプはA,B,Cの3つのグループに分かれて行われます。希望調査票に記入したあなたの希望に合うグループを、A~Cの中から1つ選び、記号で答えなさい。

*イングリッシュキャンプ：英語で様々な活動を行うキャンプ

【希望調査票の内容（あなたの希望）】

- ・日本のものについて、英語でたくさん話がしてみたい。
- ・英語が得意ではないけれど、英語だけで活動をやりきりたい。

A ・You play some sports with students from other *countries. *For example, Lin is from China and she can play table tennis very well. You can play table tennis with her. Some English teachers play sports with you too.

B ・You read Japanese manga with students from other countries and talk about manga in English! After that, you watch an English movie. Some English teachers are in this *group and help you but they do not speak Japanese.

C ・You go shopping with students from other countries and some English teachers. You *buy food and make Japanese food with them. Satoshi's mother is in this group and she can make sukiyaki. She can help you in Japanese.

【正答】B

(正答率：75.7%)

出題の意図と分析

この問題は、概要をつかむための汎用的な読解力を確認する意図で出題した。適切な文章を選ぶためには、「日本のものについて英語でたくさん話ができるか」「英語だけで活動をやりきることができるか」について判断するという目的を意識しながら、内容を解釈していく読み方をする必要がある。この問題の正答率が大きく改善した背景には、読む目的を大切に読解の指導が十分に行われていたということが考えられる。今後も、日本語訳等に留まることなく、目的を意識した読み方ができるように、学習活動を工夫していくことが大切である。

【参考】

令和6年度山口県学力定着状況確認問題（中2）8

8 ケイコは、外国語指導助手（ALT）が主催するイングリッシュキャンプ（English Camp）に参加することになっています。一緒に参加する友達のマヤからメール（e-mail）が届きました。チラシと一緒に見て、(1)～(3)の問いに答えなさい。

English Camp for junior high school students

Date : Saturday October 5th
Time : 10:00 a.m. ~ 2:00 p.m.
Place : ABC *City Hall
Teacher : ALTs in Yamaguchi City

Hello, Keiko.

How are you? I will tell you about the English camp tomorrow.

It will *start at ten in the morning, *so please come to my house.

Let's walk to ABC City Hall *together.

We can enjoy English games in the morning.

After lunch, we will practice our English speech.

We need some pictures of our family. We will talk about our family.

You don't need lunch. We will make curry and rice with ALTs.

The hall has an *outdoor kitchen. Let's enjoy *outdoor cooking!

At lunch time, the ALT's family is going to come and eat curry and rice together.

See you tomorrow.

Maya

- (1) メモやメールの内容と合っているものをア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア Keiko and Maya can enjoy English games with ALT's family.

イ Maya will go to Keiko's house.

ウ Keiko and Maya will not go to the English camp.

エ Students will talk about their family.

【正答】エ

(正答率：27.6%)

【4月確認問題 中学校第2学年英語】

課題のみられる点

- 文脈に合うように内容を考えて基本的な文法事項を活用し英文を書くことについて、継続して課題がみられる。

8 (1)

- 8 次の(1)、(2)の会話文について、それぞれ会話が成立するように()に当てはまる英文の一部を入れ、英文を完成させなさい。※ただし()内の語を用いること。

(1)【場面：昼休みに教室で、まさと(Masato)と留学生のエミリー(Emily)が話をしています。】

Emily : Oh, we have a kanji *quiz today!

Masato : (practice) kanji yesterday?

Emily : No, I didn't. Please help me.

Masato : Sure.

【正答】Did you practice

(正答率 : 33.2%)

出題の意図と分析

この問題は、やり取りの内容を踏まえ、適切な表現を選択し、正確に運用することができるかを確認する意図で出題した。令和6年度山口県学力定着状況確認問題における類似の問題では正答率が8.2%であり、今回は正答率が33.2%であったことから一定の成果がみられるが、7割程度の生徒が正答できていないことから、依然として課題であるといえる。

文脈に合うように内容を考えて、基本的な文法事項を活用しながら英文を書くことができるようになるためには、目的や場面、状況を意識した言語活動の中でアウトプットをする経験を積み重ねることが大切である。

【参考】

令和6年度山口県学力定着状況確認問題(中2) 6 (2)

- 6 次の(1)、(2)の対話が成り立つように、()内の語を用いて、必要があれば適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、英文を完成させなさい。

(2) A: I wanted to watch the soccer game last night, but I didn't.

B: Oh, really? Why? It was very exciting!

A: I had a lot of homework. I (be) my homework then.

【正答】was doing

(正答率 : 8.2%)